

1. 法人本部

(1) 全体統括

2022年度は第3期中期経営計画の2年目です。組織強化を目的として事業部間で部長の異動を行い、引き続き組織活性化に向けた取り組みを行ってきました。

給与規程の全面改定をし、人事評価に関する規程等を新たに設けて4月より導入しました。年度中は制度の浸透と意見集約等を行い、質的向上を目指して取り組みを続けてきました。

新型コロナウイルス感染症の市中での拡大により、11月に特養ではクラスターが発生、在宅サービスも複数の感染者により事業を休止することもありましたが、事業所間の積極的な協力により、影響を最小限に留めることができました。

このような状況にあっても利用ニーズには積極的に応え、過去の実績を超える事業やケアの質を下げないチャレンジを怠らない事業など、チームワークの向上が見られた一年でした。

(2) 基本方針に基づく運営状況

①理念に基づいたトータルな人材マネジメントの実現

ア. 人事評価制度の浸透に向けた取り組みを継続しました。特に評価項目や評価視点などの共有化に時間をかけ、評価者によるバラツキや誤差がでないように検討を重ねました。

イ. 新しい給与規程、昇任昇格に関する規定に基づいた運用を行う中で設定内容や必要な修正などを検証しました。

ウ. 所定外労働の削減については事業所ごとの取り組みが少しずつ浸透してきました。

エ. 東京老人ホームとの合同研修を継続し、オンラインでのセッションを行いました。

オ. 非正規から正規職員への登用を1名行いましたが、11月末で本人都合により退職となりました。

カ. 人材獲得については、実習や職場体験、アルバイト等により通年での関わりが功を奏し、次年度への新規採用へとつなげることができました。

②積極的な業務改善をもとにした生産性の向上

ア. 障害福祉分野 ICT 補助事業によるタブレットを利用した記録ソフトを一部ユニットに試験導入しました。

イ. 介護リフト、パソコンの更新、統合ソフトの導入を行いました。

ウ. 業務プロセスの評価、勤務形態の見直しなどを進める中で、感染症拡大により実践的な検証をすることができました。

エ. 業務の限定化、簡素化など業務分担をすすめ、障害のある方の雇用定着に取り組みました。

オ. これまで看護師が行っていた夜間オンコール対応を外部に委託するための検討を重ね、次年度からの導入につなげました。

③ガバナンスの強化による組織力とサービス品質の向上

ア. 職員の個人 SNS による外部への情報発信によるリスクが生じたことを受け、職業倫理の確認と規則等の見直しを行いました。

イ. 7月に四條畷市による法人監査が行われましたが、大きな指摘はありませんでした。

ウ. 新しい評議員として府下のキリスト教系社会福祉法人より1名選任しました。

エ. 公用車全車にドライブレコーダーを設置しました。

オ. 全体職員研修としてのスピリチュアルケア研修は関野和寛氏（津田沼教会牧師）に自身の体験に基づいた死生観や対人支援の在り方などについてのワークショップを実施しました。

カ. 3月には実践報告会を開催し、各事業部から6グループが報告を行いました。

キ. 事故や苦情等を分析する苦情解決委員会は2022年12月と23年3月の2回実施しました。

ク. 非常時（自然災害、感染症）の事業継続計画策定への取り組みを継続しました。

④健全な財務規律の確立

ア. これまでどおり事業部ごとに目標を設定し毎月検証を行ってきましたが、事業により収益改善となったところと課題が残ったところに分かれる結果になりました。

イ. 収益性の指標であるサービス活動増減差額率は5%となり、積立金の積み立てを計画に基づき行うことができました。

ウ. 水光熱費や食材費、また紙おむつなどの消耗品すべてが値上げとなり、予算の見直しに迫られまし

た。幸いにして府や市からの物価高騰対策補助金により一部充当されましたが、使用内容の根本的な見直しまでには至りませんでした。

エ. 職員一人ひとりがコスト意識をもって関わることを継続して推進してきました。

(3) 理事会・評議員会等

① 2022年度に行われました、理事会・評議員会は以下のとおりです。

2022年 5月30日 第1回理事会 於：るうてるホーム

2022年 6月17日 定時評議員会 於：るうてるホーム

2022年11月29日 第2回理事会 於：るうてるホーム

2023年 3月27日 第3回理事会 於：るうてるホーム

② 評議員選任・解任委員会は、2022年5月20日に行いました。

③ 監事監査は、2023年3月1、6、8日（オンライン）、5月22日に行われました。

(4) 設備整備（10万円以上）

・パソコンの更新（4台） 68,5千円

・移動式介護リフト 44,5千円

(5) 2022年度事業概要（2023年3月31日現在）

① 実施事業数：17事業（うち四條畷市委託事業3）

（老人福祉法・介護保険法）

軽費老人ホーム（ケアハウス）、広域型特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、通所介護事業（総合事業含）、訪問介護事業（総合事業含）、居宅介護支援事業、地域包括支援センター

（障害者総合支援法）

多機能型（生活介護・就労継続支援B型）、居宅介護等支援事業、日中一時支援事業、短期入所事業、計画相談支援事業

（市委託事業）

シーツ包布貸与事業、外出支援移送サービス事業、生活支援コーディネーター事業

② 総事業費 669百万円（21年度643百万円）

③ 職員数 132名（うち非正規・嘱託69名）

2. 委員会報告

(1) 人材確保・育成委員会

① 活動方針

法人の実践の積み重ねを継承・発展しサービスの向上と地域福祉の推進に積極的に取り組むため、志を同じくする人材を発掘し、また職員同士が相互に成長し合える環境を構築することを目的として活動しました。

② 活動状況

2022年度は、研修企画に十分取り組むことはできませんでしたが、新規採用者を中心とした「理念・歴史」研修は3月に実施しました。また感染症対策下においても法人説明会や職場体験も問い合わせには柔軟に対応しました。

③ 人材確保についての活動内容

ア. 大学等の実習の受け入れ 7校

イ. 就職フェア等へのブース出展 計1回 来訪者 計10名（うち採用1名）

ウ. 法人説明会・見学会の開催 計10回（うち採用4名）

エ. 職場体験 計4名

④ 人材育成についての取り組み

ア. 認知症サポーター養成講座の企画・実施 2回

イ. 法人内研修の実施サポート

(2) 危機管理委員会報告案

① 非常災害対策の推進

- ア. 中期経営計画に基づいたBCP（事業継続計画）の策定については、主任クラスに向けて情報提供を行いました。
- イ. 避難訓練については、コロナ対策のため対象者を限定し、年2回実施しました。10月（昼間想定）には、避難誘導や消火訓練を行うとともに、建物外回りの避難経路や防火扉の作動状態、ポータブル自家発電機の操作について確認しました。3月（夜間想定）には宿直者、夜勤者を対象に訓練を行い、火災発生時の初動や消火栓ホースの使用方法について確認しました。

②内部監査の実施

ジョイフルるうてるを対象に内部監査を行いました。コロナ集団感染の影響により時期を延期したため、事業所へのフィードバックは次年度に持ち越しとなりました。請求過誤の問題を受け、基本的事項を再点検するよう取り組みましたが、大きな問題は見られませんでした。

③安全運転に関する取り組み

- ア. 事故件数は8件でした（2021年度は4件）。ガードレールやポールへの接触が6件（うち4件は対向車を避けようとして発生）、自法人車両への接触が1件、リフトの破損が1件でした。事故当事者には安全運転管理者より聞き取りを行い、再発防止策を共有しました。
- イ. 経年的に見て事故は増加傾向にありますが、運転従事者に対する安全運転講習は次年度に持ち越しとなりました。
- ウ. 10月から義務化された運転前後のアルコールチェックについては、年度当初より実施し、定着させました。

④事故・苦情への意識向上に向けた取り組み

まずは管理者の意識向上を目指して、会議を通じて主任・部長クラスと課題共有を行いました。事業所から職員を選出しての取り組みについては、次年度以降に持ち越しとなりました。

(3) 安全衛生委員会報告

①活動方針

施設の入居者、利用者および職員の安心、安全が保たれ、生活環境や職場環境がよりよい状態であるように健康診断の実施や、新型コロナウイルスを中心とした感染症予防対策を行いました。また、職員の安全衛生への意識を高め、知識やスキルを習得できるような研修を実施しました。活動方法としては、メンバー15名を6グループに分け、グループ毎に各事業に責任を持って行いました。

②定期健康診断

- ア. 入居者健診 実施時期8月 受診者数 ケアハウス・特養 計96名
- イ. 職員健診 実施時期9月、10月 受診者数126名 実施機関 医療法人朋愛会
- ウ. 職員個別健康相談
健診結果に基づき、有所見の職員に対し、産業医による個別面談を実施して頂きました。10名が面談対象となり、年度内に全員面談を終了しました。生活習慣などについて丁寧に指導頂いています。

③インフルエンザ関連

- ア. 予防接種実施状況 計242名（入居者、利用者、職員など）
- イ. 発症状況 職員に1名インフルエンザ感染者がありました。

④コロナ対策

コロナ対策への取り組みは法人全体で行いましたが、必要に応じて安全衛生委員会としての対策への方針を打ち出し、事業部間の連携を図り全体での意識統一を行いました。職員全員が努力して予防対策を徹底して参りましたが、一部事業所において続けて感染者が出たため、休業もあり、職員にも感染者がありました。

⑤ノロウイルス

施設内においてノロウイルス感染症が発生することは、ここ最近はありませんでしたが、2023年度は発症があり、対策を行いました。

⑥研修実施状況

感染症対策研修

対面での研修実施は見送り、ノロ発生時の実践や振り返りをオンラインで共有する形式にしました。

(4) 地域交流委員会

2022年度は各部新型コロナウイルス陽性者が法人内にて発生したことにより、積極的な活動は難しく「できること探し」をテーマに活動を推進しました。

①作品展の支援

ケアハウスにて入居者が主体的に活動する趣味の会の取り組みや、日頃の活動の成果を発表する機会である作品展の支援を3月に行いました。手芸作品や、歌の会のメンバーと一緒にコーラスを楽しむ機会を持ち、いきいきとした時間を持つことができました。この取り組みにより入居者の新しい一面を見ることができ、貴重な体験となりました。また、各事業部の職員にケアハウスを知ってもらうきっかけとなり、入居者との交流の機会にもなりました。

②えるぼし（女性活躍推進法の推進）の取得に向けた取り組み

2022年4月から義務化された女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画について立案し、活動を進めています。

③ボランティア活動の推進

地域の集いの場所である「はっぴいカフェ」は法人内の感染症の発生により、予定延期を繰り返すことがありました。しかし、2月には新規「折り紙ボランティア」をコーディネートする事ができました。

(5) RO委員会

るうてるホームを広く知っていただけるようアピールすることを目的に活動をしています。2022年度は新型コロナウイルス感染症陽性者の発生があり、環境が整わない状態に陥ったりしましたが、ホームページの一部改定や、SNSの記事を積極的に発信することができました。

①ホームページのアップデート

るうてるホームに関心を持ってくださる方がホームページを閲覧されていることがわかるケースが多く聞かれるようになりました。新規入職の職員や、実習生等、優しい印象を持って下さることが多く、アクセスしていただくのに必要なツールであることを感じる一年でした。また、更新の必要なコンテンツもあるので、古びないように見直しを行いました。

②SNSの活用

Instagramを活用し、各部担当職員が継続的に日常の様子を発信することができました。また、Twitterでは、理事長がキリスト教にまつわるお話しを中心に発信して下さり、るうてるホームに関心を持ってくださる方が増える活動になっています。

3. チャプレン報告

「主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である。」(ネヘミヤ記 8:10)

『洗足のキリスト』のステンドグラスがるうてるホームの玄関ホールに掲げられています。主イエス・キリストがそうであったように、私たちもまたお客さま一人ひとりのニーズに対して心をこめて仕えてゆくというホーム創設時(1965年)から大切にしてきたミッションスピリットです。2022年度は、20年度から始まった新型コロナウイルス感染症のパンデミックの状況下で、注意深く感染防止対策を行いながら手探りしながら歩むことになった一年でした。この一年もいろいろなことがありましたが、私たちの思いを越えるかたちで、るうてるホームがここまで守られてきたことを心より神さまに感謝すると共に、職員の頑張りを嬉しく思い、励まされてまいりました。

(1) 「礼拝 (God' s Service)」中心の働き

①主日礼拝 (忍ヶ丘集会)

昨年度に引き続きコロナ禍により礼拝が休止となることの多かった年でした。2022年度は52回の日曜日のうち礼拝を対面で行うことができたのは38回で、休止が14回でした(21年度は休止30回、20年度は休止28回)。礼拝場所は大阪府の感染状況に応じて、ケアハウス入居者のみで二階で行った場合と、特養の入居者も含めて三階で行った場合があります(2階で行うと20人程度、3階で行うと30人程度の出席となります)。

休止日にはこれまでどおり毎週日曜日午前10時半からのJELC大阪教会のYouTubeでのライブ中継を館内の「るうてるネットワーク」で配信を継続しています。大阪教会の礼拝週報と説教要旨も希望者には毎週配布しています。

諸先生方にはいろいろとご迷惑やご心配をおかけしてきましたが、礼拝の実施に柔軟に対処してくださったことに心から感謝すると共に、牧師を派遣してくださった諸教会にも感謝いたします。

忍ヶ丘礼拝 2022 年度実施状況（2022 年の 1-3 月は昨年度に入りますが参考までに挙げています）

	22/ 1 月	22/ 2 月	22/ 3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 週	/	0	0	18	23	25	0	0	0	11	21	13	/	21	27
2 週	17	0	0	18	28	23	0	0	0	24	21	31	28	19	30
3 週	19	0	0	19	28	0	0	0	0	11	9	25	16	16	30
4 週	21	0	19	15	27	0	0	0	16	23	17	27	16	31	31
5 週	19	/	/	/	25	/	/	0	/	27	/	/	17	/	/
合計	76	0	19	70	131	48	0	0	16	96	68	96	77	87	118
平均	19	0	19	18	28	24	0	0	16	24	17	24	19	22	30

礼拝休止：2022 年 4 月より 2023 年 3 月までは、14 回の礼拝を休止しました。出席者数は 0 と記されています。なお、礼拝出席が 20 名程の際には、ケアハウス 2F ホールでケアハウス入居者に限定して行われたこととなります。

②毎朝の礼拝

『聖書日課』を用いて行われている「毎朝 9 時からの礼拝」も、主日礼拝と同じく休止が多かった一年でした。ユニットによっては有志による自主的な祈りの時を持っているところもありました。

③葬儀・告別式

2022 年度はホームでチャプレンの司式によってご葬儀をなされた方はおられませんでした。ホームの多目的ホール（チャペル）で行われるキリスト教の葬儀は、別離の悲しみの中にも希望と慰めに満ちたものとなります。クリスチャンに限らず希望者はどなたでも行うことができる葬儀はホームの大きな特徴の一つとなっています。

④聖書研究会

原則として月 2 回の水曜日の午後に、天王寺教会牧師とチャプレンが交代で聖書研究を行うことになっていますが、こちらも感染拡大のため休止の多かった一年でした。

⑤召天者記念礼拝

2019 年度から始まった召天者記念礼拝は、2022 年も 11 月 9 日に入居者と職員による対面のかたちで行われました。今年もご遺族をお招きすることはできませんでしたが、YouTube を通しての限定配信を行いました。召天者の笑顔の写真が並べられます。今後とも私たちはこれを大切にしていきたいと思います。

(2) その他の働き

①牧師懇談会

2022 年度も牧師懇談会は行えませんでした。2023 年は 4 年ぶりに 7 月に行う準備をしています。

②リラ・プレカリア（祈りのたて琴）

リラ・プレカリアのご奉仕も、残念なことにコロナ禍のため休止しています。

③上智大学グリーンケア研究所の受講生 2 名による一年間の通年実習

2022 年度も上智大学グリーンケア研究所の資格認定コースの受講生 2 名によるスピリチュアルケア実習が行われました（対象は主としてケアハウスの入居者で、COVID-19 の感染状況に応じてオンラインと対面の両方で行われました）。実習生の受け入れは、2023 年度も継続されることになっています。

④職員との関わり

4 月に大阪教会で行われていた新入職員祝福式は、該当者がいなかったため行われませんでした。2022 年度の職員スピリチュアルケア研修会は、10 月 1 日米国の病院で一年間チャプレンとしての経験を積まれた津田沼教会牧師をお招きして行うことができました。

⑤ジョージのつぶやき

2020 年 8 月 4 日から R0 委員会の依頼によって始まった Twitter 「ジョージのつぶやき」ですが、

二週間に一度の更新により既に 75 のつばやきがアップされています。

上記のように 2022 年度もこれまでと同様にコロナ禍による感染状況を注視し、それに対応しながら忍耐をもって祈りつつ、可能なことをコツコツと行ってきました。

最後にラインホルト・ニーバーの Prayer for Serenity (心の平穩を求める祈り) を記します。

神よ、変えることのできないものを受け容れる心の静けさと、変えることができるものを変えてゆく勇氣、そして両者を識別するためにあなたの智恵を私たちにお与えください。 アーメン。

4. ケアハウスるうてる

(1) 運営状況

2022年度の退居者10名(特養に5名、老健に1名、サ高住に2名、その他2名)でした。新入居者は9名(地域の方6名、他市の方3名)でした。特養への入居はいずれもるうてる特養で、短期入所利用を経て入居されています。コロナ禍で特養とケアハウスの合同会議の開催もままならない時期がありましたが、日常的に連携をとることによって短期入所や特養入居がスムーズに移行できました。

ケアハウスの申し込みで見学に来られた際に、特養の説明も求められるケースが増えてきました。特養相談員が同席し、丁寧な対応を実施しています。法人全体での利用を視野に入れた対応が必要になってきています。

現在も満室を維持できています。6月～10月にかけて入居者とスタッフに新型コロナウイルス感染症が発生しました。保健所との連携のもと、入院やホテル療養を利用され全員重症化することなく治癒されています。この時期は面会も中止され、見学もままならない状況でした。一年間の入居相談や見学者を含めると27名と前年度よりも減少傾向でしたが、ウェブでの問い合わせも2件あり、ホームページによる情報の広がりを感じています。入居中の方からご友人や知人に施設のご紹介をいただいた方もおられ、ご紹介からの申込者の獲得ができたことは嬉しいことでした。

3月には地域交流委員会の協力によりケアハウス内で「作品展」が開催されました。2022年度に発足した趣味の会の方々の作品を中心に数多くの作品を展示することができました。歌の会の方によるコーラスも好評で、参加の様子をご覧になった家族様から喜びのコメントをいただきました。

コロナ禍の対応も日々変化していますが、新型コロナウイルス感染症に限らず感染症の拡大には注意を払いつつ、その対応も含めた中での「新しい生活」を創造していくことの大切さを感じています。

(2) 事業実績

①利用状況

	2022年度	2021年度	差異
利用者数(延べ)	18,000人	18,000人	0
入院日数(延べ)	444日	427日	17日
短期入所利用日数	511日	212日	299日
稼働率/対実員	95%	96%	▲1%

②入居者の現状(2023年3月31日現在)

	60-69歳	70-79歳	80-89歳	90-99歳	100歳以上	計
男性	1	3	3	2	0	9
女性	0	4	23	14	0	41

※最高齢：男 98歳/女 96歳 ※平均年齢：男 80.8歳/女 87.0歳

③介護度状況(2023年3月31日現在)

	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
男性	1	1	1	0	0	0	0	3
女性	6	5	5	7	3	1	2	29

④介護保険利用状況 (単位：人)

	2022年度	2021年度	差異
訪問介護	216	240	▲24
訪問リハビリ	30	51	▲21
通所介護	246	227	48
福祉用具レンタル	220	231	▲11
訪問看護	0	0	0
短期入所	28	19	9
介護タクシー	0	0	0
計	740	768	▲28

5. 特別養護老人ホームるうてるホーム

(1) 運営状況

2022年度は組織力の強化を目指し「変わることに挑戦すること」をチーム目標としました。「変わることに」しましては計12名の配置転換を行い、組織としてのあり方を今一度見直すきっかけづくりとして、新しい環境、人が変わることによってそれぞれの考え方やケアの内容、関係性がより良いものになっていくことを期待しました。特に主任ケアマネジャーの配置転換により、各リーダーが自分自身の役割について深く考え、責任を持つといった場面が随所で見られ強い組織となっていることが実感できました。

また、「挑戦すること」としましては、リーダー会議の在り方について見直しを検討し、各ユニットで毎月の目標設定、実践、結果報告までを一連の流れとし、各リーダーが主体的に会議を行えるよう仕組みを変え、取り組んできました。これまで主任が作成していた勤務表もリーダーが作成することとなり、少ない人材リソースの中、他部署への応援要請なども行い、ヘルパー事業所との共同がショートユニットに留まらずに入居ユニットまで拡大していくことができました。9月には主任ケアマネジャーの夜勤回数をゼロにすることもできました。

新型コロナウイルスによる感染は入居者7名、職員14名が、ノロウイルス感染は入居者16名、職員3名が罹患し、感染の広がりも見られましたが、これまで学習した感染対策を行い約3週間で終息することができました。

特養事業部全体では総稼働率が移転後過去最高となりました。その要因としましては入院者数の減少が挙げられます。その取り組みとして生活向上委員会を発足し、入院に対しての意識を高め防げる入院を防ぐことが実行できました。退居者においては13名とそれ程少なくない人数ではありましたが、ケアハウスとの連携の強化や、ショートユニットとの密な連絡を取ることで、退居後も日数を開けることなくスムーズに受け入れすることができました。

(2) 事業実績

	目標	2022年度	2021年度	目標との差異
のべ利用者数	17,520人	17,528人	16,950人	8
稼働率	96.0%	96.0%	92.9%	0
平均介護度	—	4.0	3.9	—

※年間入院日数 671日 (上半期361日、下半期310日) 目標500日

※年間空室数 51日 (殆どが退居者の残留物引取期間のもの) 目標50日

※新規入居者数13名、退去者数13名 昨年度22名/20名

利用者の現況 (2023年3月31日現在) カッコ内は2021年度

年齢	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上	計
男	0 (0)	2 (2)	5 (3)	6 (6)	0 (0)	13 (11)
女	0 (0)	4 (6)	15 (15)	17 (17)	1 (1)	37 (39)

最高齢：男99歳 女105歳 平均年齢：男88.8歳 女88.9歳 カッコ内は2021年度

利用年数	～1年	1～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20年～	計
男	4 (8)	8 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (11)
女	7 (14)	19 (18)	5 (2)	1 (2)	2 (2)	1 (1)	37 (39)

6. ショートステイるうてる

(1) 運営状況

稼働率は高齢者、障害者ともに移転後最高の実績となりました。4月には過去最高稼働率93%を達成しました。コロナ禍の中、ケアスタッフ、看護師、相談員、ケアマネジャーが目標に向け一丸となり、受け入れへの意識が高くなったことが好結果に結び付きました。

ケアハウスとの連携強化だけでなく、新しい事務職員が採用されたことで、緊急での受け入れがそれまで以上に可能となり相談員業務が効率化できたのも大きな要因です。

また11月には新型コロナウイルス感染症によるクラスターが発生し4名のご利用者と6名の職員が感染しましたが、それまでの感染対策の経験を十分に活かし、特養事業部が一丸となってフォローし合い、1ヶ月程度で終息にこぎつけることができました。コロナを言い訳とせず受け入れの幅を広げていけたのも、現場の意識とレベルが向上し強い組織となっていることが要因です。

(2) 事業実績

	目標	2022年度	2021年度	目標との差異
のべ利用者数	高齢 4,234人	4,489人	4,267人	255人
	障害 1,460人	1,717人	1,506人	257人
稼働率	高齢 58.0%	61.5%	58.5%	3.5%
	障害 20.0%	23.5%	20.6%	3.5%

※1日当たりの平均利用17.0人（高齢12.3名、障害4.7名）でした。

※1か月を超えて利用された方は、高齢27名、障害2名でした。また、緊急利用はのべ26名でした。

※年間利用実人員数は、高齢79名（男23、女56）、障害25名（男17、女8）でした。

※新規利用者は高齢33名、障害5名でした。

7. デイサービスセンターるうてる

(1) 運営状況

2022年度は異動や退職などで介護・看護職員4名が減、新型コロナウイルス罹患による相次ぐ欠勤などもあり、年間を通して職員配置が不安定でした。パートの看護職や事務員、学生アルバイトを各1名採用し、他部署職員の協力もありましたが、人員体制としては大変厳しく、主任が生活相談員や職制の業務に十分入れない状況が続きました。

事業においては利用者獲得のため「新しいサービスの構築」を目指し、自立度の高い方を特定の曜日に集めて特色を出す取り組みを継続するとともに、多様な地域ニーズに対応するべく通所介護相当サービスや通所型サービスA（半日利用可）の利用枠を5名から10名（1日あたり）に拡充しました。さらに、新規事業として5月より通所型サービスC（3ヶ月の短期集中型、定員10名）を開始し、他法人の専門職と連携しながら運営しました。

また、「業務改善の取り組み」の一環として、朝の業務について職員全体で課題を共有し見直しを行いました。「従業員満足度の向上」については、職員の「やりたいこと」が引き出せるよう主任が中心となって環境づくりを行う中で、利用者、職員双方の希望を受け、新しいプログラムを試行したり、外出支援を再開したりすることができました。「事業継続計画」については策定には至りませんでした。実際にコロナへの対応を行う中で感染症発生時の体制について具体的に想定することができました。

懸案であった科学的介護推進体制加算は6月より算定を開始、休止していたはっぴいカフェについては生活支援コーディネーターの支援を受けながら、10月より再開することができました。

(2) 事業実績

①通所介護、第1号通所型サービス（定員 35 名）

	目標	2022 年度	2021 年度	目標との差異	前年との差異
のべ利用者数	9,860 人	8,674 人	8,766 人	▲1,186 人	▲92 人
稼働率	90.0%	79.2%	80.3%	▲10.8%	▲1.1%

※体験利用者数…31 人（21 年度 56 人）、新規利用者数…23 人（21 年度 47 人）

②通所型サービス C（定員 10 名）

	目標	2022 年度	目標との差異
のべ利用者数	230 人	245 人	15 人
稼働率	50%	53.3%	3.3%

※のべ利用者数には事前・延長前・終了前訪問を含む

8. ジョイフルるうてる

(1) 運営状況

2022 年度は、「チーム力の強化」を事業方針の柱として運営しました。コミュニケーションの強化を図るため、リスクマネジメントに関連づけて毎月具体的な目標を設定し、意識的に取り組みました。また、業務内容の見える化、標準化を目指す中で互いが成長できる仕組みを考えながら、業務や優先順位、役割分担について見直しを行いました。

個別支援計画についてはその充実に向けてアセスメント表の見直しを行いました。見学や体験利用、本利用の流れをフローチャート化し、遅滞なく個別支援計画を作成できるようシステム化しました。また、支援計画について毎月共有する機会をもち、本人や家族の意向を確認するよう努めました。

生活介護においては、看護業務における「医師の指示」の確認方法が課題となり、各医療機関との調整を行いました。就労継続支援 B 型においては、職員間で工賃評価のすり合わせを行う中で利用者支援の価値を共有することができました。また、改めて何をめざす事業所なのか軸を明確にすべくコンセプトの策定に向けて議論を重ねました。自主製品であるタオルケーキについては、イベントで販売すると共に 2 事業所から発注を得ることができました。

「事業継続計画」については策定には至りませんでした。実際に新型コロナウイルスへの対応を行う中で感染症発生時の体制について具体的に想定することができました。

「コスト意識の醸成」については、物品の管理方法や置き場所を見直し、環境整備をすすめました。また、過去 6 年半以上に及ぶ請求過誤が判明し、大阪府と協議を重ねた結果、生活介護の定員を 12 名から 10 名へ変更しました。

(2) 事業実績

①生活介護（定員 10 名）

	目標	2022 年度	2021 年度	目標との差異	前年との差異
のべ利用者数	3,315 人	3,189 人	2,806 人	▲126 人	383 人
稼働率	128%	123.1%	109.2%	▲4.9%	13.9%

※2022 年 12 月に定員変更。それに伴い、目標稼働率を 110%から 128%へ変更。

※2021 年度の稼働率は、定員 10 名で換算。

※新規・体験利用者…なし、利用終了者…2 名（入院、逝去）

②就労継続支援 B 型（定員 10 名）

	目標	2022 年度	2021 年度	目標との差異	前年との差異
のべ利用者数	2,064 人	1,565 人	1,944 人	▲499 人	▲379 人
稼働率	80%	60.7%	75.3%	▲19.3%	▲14.6%

※平均工賃…6,638 円（21 年度 8,619 円）

※新規・体験利用者…各 2 名、利用終了者…1 名（入院）、他事業所移行…2 名

9. ヘルパーステーションるうてる

(1) 運営状況

お客様へは“心を届ける介護”と、ヘルパーへは“自立と自律”を目指しました。20年の永年勤続表彰をされたヘルパーが5名おり、単に物理的なサービスだけではなく、その方と向き合うゆったりとした「心豊かな時間」の提供を行える職員が多くいることで、頼もしいチームであると感じています。

チーム力向上として、サービス提供責任者の育成に力を入れました。シフト作成を軸に、コーディネーション力向上のため、お客様のこと、スタッフのこと、全体を見ることを体感してもらいました。

営業活動もサービス提供責任者の地域との関係づくりのため進めました。また、今年度は加算取得には至りませんでした。取得に向けた環境整備として、サービス提供責任者が所内研修を定期的実施しました。コロナ禍でありましたがグループを分けて実施し、なかなか事務所で顔を合わす機会のないヘルパー同士の交流の時間になりました。

法人内連携については、昨年度のるうてるコラボレーションプロジェクトの参加がきっかけで、単に他部署の“お手伝い”ではなく、在宅支援に対する“協働”の考え方で協力関係を構築できてきたと実感しています。人や時代や形が変わっても継続して在宅支援ができるよう、具体的な協働が進んだと考えます。OA機器の活用の習慣化に関しては、計画書を作成することができるようになり、OA機器に慣れる経験となっています。

新型コロナウイルス感染症発生にともない、当ステーションでもサービス提供の危機的状況がありました。残念ながら1件は他事業所に振り替えましたが、残ったスタッフでサービス提供を継続できました。このような危機に対しても事業継続計画書の作成を予定していましたが、今年度は未着手でした。担当を決めたことで次年度作成に向けた準備はできたと考えます。

長年勤められた事務員の退職と交代がありました。精神疾患を持つ職員との関わり方について学びました。また、新しい事務員に業務を引き継ぐことで、業務分化を考える機会になりました。

(2) 事業実績

①介護保険

	目標	2022年度	2021年度	目標との差異
利用者数(月ごとのべ人数)	720人	559人	627人	▲161人
のべ訪問回数	6,480回	5,979回	6,208回	▲501回

②障害者総合支援

	目標	2022年度	2021年度	目標との差異
利用者数(月ごとのべ人数)	83人	95人	73人	12人
のべ訪問回数	1220回	1,952回	1,289回	732回

③その他

	目標	2022年度	2021年度	目標との差異
移動支援	36回	69回	33回	33回
産前産後	49回	88回	13回	39回
有償	240回	345回	121回	105回

10. ケアプランセンターるうてる

(1) 運営状況

2022年度の方針として所内のコミュニケーションを円滑にし、情報共有と明るい雰囲気づくりができるチームづくりを目指しました。研修内容やケースの支援方法を共有する機会として、2か月に1回定例で事例検討会を計画し、新型コロナウイルス感染症発生のため中止した月以外は定例で開催できたことで、後述の地域交流に記載した通り、地域で行った研修会等での登壇に至ったと考えます。

ケアマネジメントの質的向上については、業務支援ソフトの活用方法と、請求の勉強会を行ったことで、法人内での申し送りに活用できるようになりました。書類整理については担当者を決め、書類の点検を予定していましたが、実施には至りませんでした。

ICTの活用についてはZOOMを各自が活用できるようになり、また、委員会や他部署との研修などでセッティングを積極的に行えるようになりました。

総合相談機能の拡充については、社会貢献事業関連の研修に参加をしています。総合相談ができる人材育成のため、まずは所内で支援のポイント整理を行えるよう方向性を共有しました。

関係機関との地域課題の共有については、介護支援専門員連絡会の世話人会や自立支援協議会のプロジェクトチームへ参画しています。地域課題をケースの積み上げから提案できるよう、所内でもケース検討や研修内容の共有などの機会を活用していきます。

非常災害時対策については、事業継続計画の作成に向けて8月から取り組み、感染症について初版が完成しました。

人材確保・育成のための取り組みについては、今年度から日課リーダーを決めて毎日の朝礼時の進行をはじめました。所内で学び合うチームづくりを目指せるよう、研修や地域ケア会議への参加を通じて、人材育成についての学びと現状を考察しています。また介護支援専門員実務研修受講試験受講者に対して、委員会と連携し相談会の企画に参画しました。

(2) 事業実績

①介護保険 居宅介護支援・介護予防支援

	目標	2022年度	2021年度	目標との差異
介護ケアプラン数	1,548件	1,284件	1,356件	▲264件
介護予防ケアプラン受託数	360件	297件	270件	▲63件
一人あたり請求件数/月 ※1	33.5件	36.1件	37.2件	2.6件
一人あたり支援件数/月 ※2	37.0件	39.9件	40.6件	2.9件

※1…一人あたり請求件数=(要介護ケアプラン数+介護予防ケアプラン÷2)÷(常勤換算値)/月

※2…一人あたり支援件数=(要介護ケアプラン数+介護予防ケアプラン)÷(常勤換算値)/月

※常勤換算値…2022年度実績は11月まで4.4名、12月以降3.4名で計算

②障害者総合支援 計画相談支援

	目標	2022年度	2021年度	目標との差異
プラン数	288件	294件	279件	6件
請求件数	72件	74件	63件	2件

1.1. 四條畷第1地域包括支援センター

(1) 運営状況

4月に職員の異動があり、新体制でのスタートとなりました。地域支援活動のキーワードを一新し、「地域共生社会」の実現を目指し、地域に根を張り関わり続けることで点から線、線から面にネットワークを広げていくことを重点的に目指し、所内で方向性を確認しながら進めています。

地域での活動の歴史や意味を学びながら地域と顔の見える関係づくりを築いていけるよう所内で勉強会をおこない、地域の特性や課題を抽出し、地域住民と一緒に話し合いができるよう取り組みました。

介護予防事業では、自立支援型地域ケア会議(検討)にて市内ケアマネジャーと自立支援の考え方を共有する機会づくりに力を入れました。さらに、各種教室や関係団体と協働して体力測定会を開催したことで、地域活動の担い手を発掘できました。

2022年度は大阪府介護予防ケアマネジメントICT化促進事業に参加しました。積極的にICTツールを使うことで、帳票を活用すること、工程分析を行うことが、ケアマネジメントの質的向上につながることを実感できました。

(2) 事業実績

①包括的支援事業

ア. 総合相談支援事業(のべ件数)

	2022年度	2021年度
総合相談業務	506件	530件

イ. 権利擁護事業(のべ人数)

	2022年度	2021年度
権利擁護に関する相談	12人	13人

高齢者虐待に関する相談	11人	7人
-------------	-----	----

ウ. 包括的継続的マネジメント業務 (のべ人数)

	2022年度	2021年度
介護支援専門員支援に関する相談	17人	15人
研修会	1回	6回
ネットワーク会議	35回	54回

エ. 地域ケア会議

	2022年度	2021年度
個別地域ケア会議	9回	6回
圏域地域ケア会議	15回	9回
自立支援型地域ケア会議	3回	2回

②指定介護予防支援・第1号介護予防支援事業 (介護予防ケアマネジメント) に係る事業
ア. 2022年度実績

	介護予防支援	介護予防 ケアマネジメント
ケアプラン作成数	1,379件	696件
うち委託件数	1,130件	504件
うち自事業所作成件数	249件	192件

イ. 昨年との比較及び目標との差異

	目標	2022年度	2021年度	目標との差異
ケアプラン作成数	2,400件	2,075件	2,352件	▲325件
うち委託件数	1,884件	1,634件	1,778件	▲250件
うち自事業所作成件数	516件	441件	574件	▲75件

③介護予防事業

ア. 介護予防普及啓発事業 介護予防教室・介護予防に関する講演会 () は参加人数

	2022年度	2021年度
開催回数 (参加人数)	3回(39人)	8回(133人)

イ. 地域介護予防活動支援事業 () は参加人数

	2022年度	2021年度
通いの場開催 直接的支援	13回(26人)	6回(12人)
通いの場への専門職派遣	4回(70人)	5回(88人)
ボランティア活動支援等	11回(39人)	9回(34人)

④その他の事業 (任意事業)

ア. 家族介護支援事業 () は参加人数

	2022年度	2021年度
家族介護教室	1回(3人)	3回(22人)

イ. 認知症高齢者見守り事業 () は参加人数

	2022年度	2021年度
認知症に関する教室・講演会	0回(0人)	2回(24人)
認知症サポーター養成講座	4回(22人)	1回(8人)
(うち、ジュニアサポーター養成講座)	10回(388人)	0回(0人)
認知症サポーターステップアップ講座	4回(27人)	1回(9人)

12. 栄養

(1) 運営状況

2022年度も安心・安全な食事を通して、その人らしい生活ができるよう支えるを第一に、「食べること」で健康維持を実現できるようサービス提供に努めました。

また、生活の楽しみや潤いの一環となるような食事提供ができるよう、利用者満足度の向上にも注力しました。

コロナの影響は引き続きありましたが、新たな業務の進め方や、今後の課題なども発見することができました。

災害対策については、非常食の整備を行いました。コロナやノロの発生もありましたが、献立変更や使い捨て容器の活用など、実践での対応も混乱なく行うことができました。

今後の課題として、物価高騰による食材への影響や、水光熱費増額への対応策の検討、食数システムの見直しなどを継続していきます。

(2) 事業実績

事業所		上半期	下半期	2022年度合計	2021年度合計	2020年度合計
ケア	実食数	22,546	23,045	45,591	46,378	46,623
特養短期	実食数	31,132	30,652	61,784	59,405	58,113
	経管	2,826	3,195	6,021	5,961	7,065
デイ	食数	4,370	3,961	8,331	8,538	8,362
障害	食数	1,932	1,673	3,605	3,526	3,753
配食	食数	148	100	248	583	318

13. 事務課

(1) 運営状況

2022年度は、健全な経営基盤構築と着実な収益確保の定着を取り組み目標としました。

第3期中期経営計画の2年目の年度として、各事業部での前年度を上回る利益を獲得するための取り組みを支援する方法を、模索しながら進めて参りました。上半期は収益においては安定した数字が確保できておりましたが、冬季に感染症の影響があったこともあり、下半期は若干収益の減少がみられました。また、想定された物価高騰の中で光熱水費に注視し、細かな情報の共有を行って参りましたが、電気、ガス共に単価の急騰によって大きな負担となりました。しかしながら、各事業部による経常的な収益確保の努力が行われ、今期も収支においてプラスの結果を残すことができました。これまでとはまた別の補助金、助成金等も自治体へ申請することができ、支出増への補填となりました。

業務運営については、他事業部の運営に支障をきたさないように安定した業務遂行を行うことに努め、感染症の影響下においても停滞することはありませんでした。

地域との共生を目指した積極的な関わりは、今年度も一年を通して慎重にならざるを得なかったことは残念なことではありましたが次年度以降の目標として取り組んでまいります。

(2) 事業実績

①収入状況

(単位：千円)

	予算	決算	予算対比	2022年度	2021年度
介護保険等	377,968	376,481	99.6%	366,290	358,699
利用料	153,828	153,251	99.6%	149,362	143,228
診療報酬	4,710	4,266	90.5%	4,912	4,453
自立支援	76,948	75,421	98.0%	69,449	64,975
補助金・委託料	52,505	52,471	99.9%	43,631	53,346
その他	9,578	8,472	88.5%	10,079	6,056
合計	675,537	670,362	99.2%	643,723	630,756

②支出状況

ア. 総合支出

(単位：千円)

	予算	決算	予算対比	2022年度	2021年度
人件費	432,483	427,291	98.9%	417,437	412,099
事務費	60,690	58,395	96.2%	55,547	57,384
事業費	90,417	89,420	98.8%	78,981	79,903
借入金返済	51,312	51,312	100%	51,312	51,312
返済利息	7,347	7,347	100%	8,905	9,323
その他	5,495	5,159	93.9%	5,243	8,500
合計	647,744	639,924	98.8%	618,425	618,521

14. 四條畷市委託事業

(1) 運営状況

リネンサービスは1名が継続利用されていますが、10月より長期入院のため休止しています。外出支援移送サービスは利用がありませんでした。生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）事業は、受託して4年目となります。地域課題の抽出、地域活動の担い手となる住民（福祉人材）への働きかけ、認知症をテーマにしたボランティアのマッチングを柱に地域住民との協働を目指し活動を行いました。

(2) 事業実績

①リネンサービス

	2022年度	2021年度	差異
のべ対象者数	6人	12人	—
のべ枚数	27枚	104枚	▲77枚

②外出支援移送サービス

	2022年度	2021年度	差異
利用実人員	0人	0人	—
延べ利用者数	0人	0人	—

③生活支援コーディネーター

	2022年度	2021年度
生活支援協議体関連	19回	30回
地域活動	53回	27回
各種研修	0回	8回
各種会議等	9回	5回